

## 富士山、船津口古道と吉田古道を歩く(個人山行)

◎ 2024年6月8日(土)～9日(日)

◎ メンバー：FY IK 他一名

(報告) FY

8日。晴天。河口湖駅近くから船津口古道を歩く。

最初の8kmは車道炎天下歩きのためタクシーで船津林道ゲート口まで行く。これで2時間の節約となる。林道ゲートは広いが、がっちりとした門があり、中は何本もの倒木でふさがれている。道標も無く、ここが船津口古道なのか判断に迷った。しかし、ゲート内に入り倒木をかき分けながら歩くと、道はしっかりしていた。昭和28年までここから富士山三合目までバスが走っていたそうだ。昭和36年富士スバルラインができるまでこの道はバス道だった。そういえば道の両側が石垣で組んである所もあり不思議としっかりしていた。

二合目。富士スバルラインの下を通過し昼食を取る。この辺りまで道がしっかりしていたので問題なく歩けた。しかしこの先からテーピングが分かりづらくなってきた。道標は全く無い。ピンクのテープを頼りに先を進む。



苔が美しい。苔が一面に光っている幻想的な風景。原生林に囲まれた緑の美しい苔が続く。深く蒼い森の海だ。苔の絨毯だ。しかし、人が入っていないので道が消えている。ルートファインディングが難しい。道を迷ったようだ。いよいよテープが消える。あちらの道のような所、こちらの獣道のようなところと、倒木をかき分けながら歩を進める。道が無いので苔の上を歩く。申し訳ないようなもったいないような贅沢な時間だった。倒木をくぐり、ひたすら苔の上を歩く。時刻が午後4時近くになった頃、ひょいと精進湖口古道に出た。この古道に出会うことは分かっていたが、なかなか出会わないので心配になっていた所だった。標高2000mを越えていたのでそろそろ三合目だろうとは思って居た。予定では精進湖古道の三合目で出会う予定だったがほぼ四合目まであがっていた。4時間かかった。一安心だ。ここからは五合目の船津口古道と精進湖古道の終着地まであと少しだ。まだ5時だが五合目には観光客が多かった。香港の中国人からシャッ

ターを頼まれた。

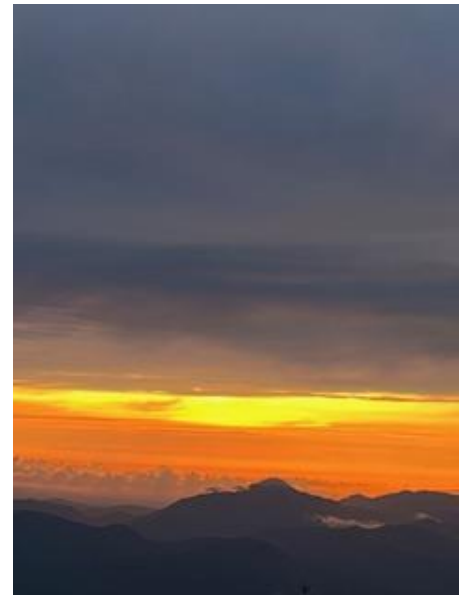
佐藤小屋は一年中開けてくれるので心強い。今夜の宿泊客は7人。私たち3人とボストンから来た2人のアメリカ人。彼らは富士スバルラインをタクシーで上がってきたそうだ。下のホテルに泊まるよりタクシー代15000円払って14000円の佐藤小屋に泊まる方が安いのだそうだ。日本のホテルは今、どんだけ高いのだろう。彼らは全く装備を持っていない。アイゼンもピッケルもヘッドランプも、靴はスニーカーだった。明日富士山に登りたいと言っていたので死にに行くようなものだと止めさせた。結果、朝4時から六合目辺りで日の出を見ることで落ち着いた。

甲府住人の男性は精進湖古道を下から単独で歩いてきた。8時間30分かかったそうだ。彼も富士山の古道歩きをしているそうだ。しかし、精進湖古道に登りに使うとは気合いの入り方がちがう。途中で道に迷ったと話してくれた。

最後の一人は京都の大学生。彼女は金曜日の授業を終えて、夜行バスで今朝、河口湖。そしてここまで来たそうだ。明朝富士山に登り、日曜の夜行で京都まで帰り、月曜の朝の授業に出るそうだ。遅しい。消灯が9時。ゆったりと湯たんぽ（300円）を抱いて寝る。

9日。4時起床。空は明るい。日の出が4時30分頃だというので外に出る。山中湖の向こうに朝日が昇る。西に目を移すと雲海の向こうに八ヶ岳が聳えている。良い眺めだ。ゆったりとBFの弁当を頂き、7時に下山開始。吉田古道は江戸時代から最も歩かれていた道だ。四合目・三合目・二合目には昔の茶屋が倒れている。吉田町が作った写真入り解説がある。船津口古道とは全く違う丁寧な案内だ。道も石組みのしっかりとした道だ。途中はトレランの方々と会う。7月下旬に行われるフジトレイルランニングの準備練習だそうだ。このレースには3778人が参加するという。大きなイベントだ。快適なステップで馬返しに到着。ここにはみそぎ場の跡がある。けっこう広い場所だ。嘗てはここで身を清めて登拝したのだ。馬返しにはお休み所茶屋「大文司屋」がオープンしていた。ここに小屋があったがずっと閉まっていたのでオーナーのHさんに聞くと、嘗て明治大学山岳部に委託していた。2020年56年ぶりに小屋をオープンしたそうだ。祖父が経営していた小屋を自分が退職したのをきっかけに再開したそうだ。明治大学山岳部に任せていた頃は、植村直己さんも富士山冬季合宿ではこの小屋に泊まったそうだ。小屋の中には植村さんのエベレスト登頂の写真も飾ってあり長い歴史を感じた。船津口古道を歩いてきた話をすると、あの道はもう5年以上人が入っていないそうだ。あの荒れ方に納得した。

Hさんはこれから吉田古道を復活するために頑張るそうだ。三合目に小屋を再開するという話もあるそうだ。しかし、水や燃料を手で運び上げなくてはならないので厳しいだろうという事だった。世界遺産登録で外国人登山者が増えているそうだ。吉田古道に賑わいが戻ってくることを願う。





アーネスト・サトウは今から約 150 年前に日本に滞在し、登山にも励んだ。富士山には 5 回ほど登っている。須走口・須山口・村山口・人穴口・吉田口である。この他、精進湖口があるが彼は使っていない。人穴口は廃道になり今は登れないが、興味がある古道だ。



#### 《コースタイム》

6月8日(土) 10:00 富士急河口湖駅集合—タクシーで船津口林道ゲート  
12:00 発—13:30 二合目—16:00 四合目—17:00 五合目—18:00 佐藤小屋 泊  
歩行6時間

6月9日(日) 6:40 佐藤小屋発—9:00 馬返し【大文字屋で休憩】  
歩行2時間30分  
10:10 のバスで富士山駅 解散 一泊夕食・弁当 14000円